

令和5年度 学力向上指導改善プラン

学校教育目標		「夢や希望を持ち、目標に向かってたくましく、しなやかに生きる生徒の育成～明るく、わ(和・輪)のある学校～」
推進主体		研究推進委員会(管理職、研究推進担当、兵庫型学習システム担当、国語科・数学科・英語教科担当、特別活動担当で構成)
学力に関する前年度の状況・経年の課題等		
学力的状況	国語	◇昨年度の結果より、「読むこと」領域の問題において、全国平均を10ポイント程度上回る正答率であり、物語文における表現・描写の読解・把握の力の定着がうかがえる。また、言語知識における学習活動の定着の高さがうかがえる。 ◆昨年度の結果から、「書くこと」領域の記述式問題「自分の考えが伝わるように、根拠を明確にして書く」の正答率が5割程度であり、「話すこと」領域の記述式問題「自分の考えが伝わるように表現を工夫して話す」の正答率が6割程度であることから、自分の考えや意見を適切に表現する力に課題が見られる。
	全国学力・学習状況調査結果の状況(国語、算数・数学に関する質問紙調査の結果も含む)	◇昨年度の結果より、「数と式」領域や「関数」領域の問題において、全国平均を15ポイント程度上回る正答率であり、数の性質の理解度が高く、関数を式やグラフを適切に用いて思考し表現する力が高まってきていると考えられる。 ◆昨年度の「図形」領域の「証明されたこと」がらを用いて、ことがらが成り立つことを説明する問題では、正答率が27.8%(全国13.3%)で3割程度にとどまっている。このことから課題解決において、目的に応じて数学的な表現を適切に選択し、それを用いて説明する力を高めることが課題である。
	ICT機器を効果的に活用した取組状況	◇昨年度は年間を通じて、教職員を対象に「ミライシード」のオクリンク機能やムーブノート機能を授業場面において適切に活用するための研修を複数回企画し、実践してきた。各教科の特性に応じて、生徒が授業場面でiPadを活用して学習することが効果的と考えられる場面を検討し、活用を進めている。 総合的な学習では「Pages」や「Keynote」アプリを活用し、調べ学習をした内容をレポートにまとめたり、効果的なプレゼンテーションを作成してグループで共有し、発表する活動などに取り組んでいる。
	定期テスト、単元テストなどによる状況(各教科)	◇生徒の定期テストへの意欲は高く、時間を有効に活用し、計画的に学習に取り組む姿勢が高まってきている。 ◆テストの得点のみならず、学習方法やその過程を振り返り、自分に適した学習方法を身につけていくことが課題である。
	授業等からうかがえる状況(各教科)	◇落ち着いた学習に取り組むことができる。グループでの学びの機会を意図的に組み入れた結果、授業における生徒間の対話が増え、友達の意見を大切にして共に学ぶ雰囲気が高まってきている。 ◆自身の経験や、過去の学びと今学習していることを比較したり関連付けて考え、根拠を明確にして自分の考えや意見を筋道を立てて説明する力を高めていくことが課題である。
学力向上に係る学習習慣・生活習慣等の状況	全国学力・学習状況調査の質問紙の状況	◇「将来の夢や目標を持っていますか」の質問では、肯定的な回答が70.6%(全国67.3%)であり、学校生活での学びを通じて、将来に向けてしなやかにたくましくそして力強く進もうとしている様子が見られる。また、「人が困っているときは、進んで助けていますか」の質問では、肯定的な回答が93.2%(全国87.8%)であり、共に学ぶ仲間を大切にして、困難と向き合いながらも人や、地域、社会の役に立つことを喜びと感じることのできる生徒が育ってきていると考えられる。 ◆ICT機器や、ホワイトボードなどを効果的に活用し、授業で生徒が課題について議論し、考えを深める場面を増やし、対話的に学ぶことの良さを実感できるようにすることが課題である。
	学校評価などのアンケート調査による児童・生徒の状況	◇学校評価生徒アンケートにおいて、「生徒は授業に真剣に取り組む、わかりやすい」と言っている。」の項目において、生徒の肯定的評価は93%であり、多くの生徒が授業に意欲的に取り組むことができていると考えられる。 ◆学校評価生徒アンケートにおいて、「生徒は自ら進んで発表をしたり、宿題や復習など家庭学習を行っている。」の項目において、生徒の肯定的評価は72%であり、昨年度の評価と同等程度であった。多くの生徒が主体的に授業や家庭学習に取り組んでいる一方で、授業の発表や宿題への取り組みなどに課題を感じている生徒がいることが推察される。したがって、生徒の発言(考えや意見、疑問)に共感し、学びを支援する授業の工夫をさらに進めていきたい。また、生徒の学習の様子について、通信や懇談等を通じて共通理解を深め、具体的な学習指導へとつなげていきたい。
校内研究状況・研修の状況	校内研究の状況	◇昨年度は、『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善～iPadの効果的な活用推進～』を研究テーマとし、「資質・能力の三つの柱」を念頭に、iPadの効果的な活用推進を軸として授業改善を進めてきた。今年度も、「iPadの効果的な活用の推進」に焦点をあて、さらなる授業改善を進める。
	校内研修の状況	◇昨年度は、学習場面におけるiPad効果的な活用を推進するため、「ミライシード」各機能の活用に関わる研修を実施した。各教科の実践交流を通じて、「生徒の学びの姿」からさらなる授業改善につなげるために、継続して研修を推進する。
家庭・校種間連携	家庭・地域等の状況	◇子どもの教育に対する関心が高い家庭が多く、学校教育活動にも協力的である。生徒がボランティア活動などを通して地域で活動し、交流を進めている。
	小・中における教科連携等の状況	◇年度当初に小学校と連絡を取り合い、「生活・学習習慣」や「学習指導」についての交流を行っている。 ◇「道徳・人権教育」の年間指導計画(カリキュラム)の小中間の交流を進めている。 ◆授業の見学などを通じて保幼小中間の交流を進め、発達段階に応じて工夫をした取り組みを共有するとともに、学習指導の充実を図ることが課題である。

		4月	2～3月	
学力向上に向けての重点的な目標	成果となる目標 (指標となる数値等)	具体的な行動目標 (成果目標達成のための具体的な手立て等)	年度末評価 (今年度の成果と来年度に向けた課題等)	
			評価	
1. 授業改善	○学校評価生徒アンケートにおいて、「生徒は授業に真剣に取り組む、わかりやすい」と言っている。」の項目で、肯定的評価が90%以上。 ○学校評価生徒アンケートにおいて、「学校は授業の工夫や放課後の学力補充など、生徒の学力向上に取り組んでいる。」の項目で、肯定的評価が90%以上。 ○全国学力・学習状況調査の生徒質問紙において、「将来の夢や目標を持っていますか。」の項目で、肯定的意見が74%を目指す。 ○全国学力・学習状況調査の生徒質問紙において、「自分には、よいところがあると思いますか。」の項目で、肯定的意見が75%を目指す。 ○全国学力・学習状況調査の生徒質問紙において、「人が困っているときは、進んで助けていますか。」の項目で、肯定的意見が95%を目指す。 ○全国学力・学習状況調査の生徒質問紙において、「学校で、学級の生徒と意見を交換する場面」で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか」の項目で、「週1回以上」の回答が20%を目指す。 ○全国学力・学習状況調査の生徒質問紙において、「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」では、肯定的意見が78%を目指す。	○『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善～iPadの効果的な活用推進～』を研究テーマとし、ICT機器を活用した学習指導の工夫、授業改善に取り組む。 ○「自分にもできた、分かった」と生徒が実感できる授業の工夫をする。 ○「めあて(見通し)」と「振り返り」を取り入れた授業を行い、生徒の学びに対する自己調整能力を高める指導を行う。 ○協働的・探究的な学習を積極的に取り入れた授業を行う。その中で、生徒が互いに意見を交流し、考えを広げたり深めたりすることを目的として、ホワイトボードやiPadのアプリケーションなどを効果的に活用する。 ○課題や目的に応じて、「図・表・グラフ」などの資料を効果的に提示し、根拠を明らかにして、自分の意見を述べるとともに、多様な他者の考えや価値観に触れる機会を作る。 ○各教科の専門性に応じて、iPadの効果的な活用場面を検討し、積極的に実践を行う。 ○「授業参観Weeks」で、全教員が互見授業をおこない、「生徒の学びの姿」を授業改善につなげる。 ○校内研修及び、研究授業を積極的に行う。	○『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善～iPadの効果的な活用推進～』をテーマとして研究を進め、iPadの効果的な活用を進めた。 ○iPadの活用や特別支援に関する研修を実施したり、授業研究や授業を互いに見学するなど、授業改善・学力向上に取り組んだ。 ○学校評価生徒アンケートの⑦「授業に真剣に取り組む、わかりやすい」の項目において、肯定的評価が94%であり、多くの生徒が授業に意欲的に取り組むことができていると考える。 ○全国学力・学習状況調査の(33)「PC・タブレットなどのICT機器の使用」の項目において、「ほぼ毎日」と「週3回以上」を合わせると90%であり、学習場面での活用が進んでいる。 ○学校評価生徒アンケートの⑫「授業の工夫や学力補充など生徒の学力向上に取り組んでいる。」の項目において、生徒の肯定的評価は92%であった。一方で保護者の肯定的評価は74%であり、生徒の実感よりもやや低くなっている。さらなる学力向上に向けた取り組みに対する期待の大きさが伺える。 ○全国学力・学習状況調査の(40)「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」では、肯定的意見が85%であり、大きく目標を上回った。多くの生徒が仲間と学ぶことの良さを実感している。 ○全国学力・学習状況調査の(4)「自分には、よいところがある」の項目において、肯定的意見が82%であり、多くの生徒が自分の良さを発見し、大切にしようとしている様子が伺える。 ●全国学力・学習状況調査の(7)「将来の夢や目標を持っていますか」の項目において、肯定的意見が63%であり、目標達成には至らなかった。また、「(8)「人が困っているときは、進んで助けていますか」の項目は、肯定的意見が89%であり目標には届かなかった。地域活動、進路指導・体験活動(学校行事を含む)をはじめ、キャリア教育の視点で教科横断的な指導の充実を目指し、自己有用感を高める工夫を進めたい。	A
2. 家庭学習の充実	○学校評価生徒アンケートにおいて、「生徒は自分から進んで発表をしたり、宿題や復習など家庭学習を行っている。」の項目で、肯定的評価が80%以上を目指す。 ○全国学力・学習状況調査の生徒質問紙において、「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。」の項目で、肯定的評価が65%を目指す。	○各教科で計画的に家庭学習の課題を与え、基礎学力の定着と家庭学習の習慣化を図る。 ○キャリアパスポートの振り返り、テスト計画表の作成など、生徒が自らの取り組みを振り返り、改善するための指導を充実させる。 ○通信等を通じて、各家庭への啓発を行う。 ○校区連絡会において、学校評価アンケートの家庭学習の現状を交流し、改善点を探る。	○定期的に自己の学びをふり振り返り、それぞれの学びを最適化していくためにキャリアパスポートや、テストに向けた学習の計画に取り組んだ。 ●学校評価生徒アンケート⑫では、「生徒は自分から進んで発表をしたり、宿題や復習など家庭学習を行っている。」の項目において、肯定的評価が72%であり、目標には届かなかった。個々の生徒が自分に合った学び方を見つけ、より積極的に学びに参加できるよう指導の工夫を進めたい。 ○全国学力・学習状況調査の生徒質問紙(16)では、「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。」の項目において、肯定的評価が69%であり、目標を達成した。さらに自己の学びを調整する力を高めていきたい。	A
3. 学力補充	○学校評価生徒アンケートにおいて、「学校は授業の工夫や放課後の学力補充など、生徒の学力向上に取り組んでいる。」の項目で、肯定的評価が90%以上を目指す。	○朝学習で基礎基本の定着を図る。 ○テスト前や長期休業中に、学習相談日を設け、個に応じた指導を充実させる。 ○木曜日の放課後や、ひょうごがんばり学びタイムを活用して、学習状況に課題がある生徒を中心に補充学習を行う。 ○兵庫型学習システムを活用して少人数のきめ細かな指導や個々のつまづきに応じた支援を行う。	○朝学習を通じて基礎基本の定着に取り組んだ。また、定期考査前を中心に学習相談日を設定し、個々の課題に応じた指導を進めた。 ○学校評価生徒アンケート⑫では、「学校は授業の工夫や放課後の学力補充など、生徒の学力向上に取り組んでいる。」の項目において、生徒の肯定的評価は92%であった。 ●引き続き、学習活動において困難を抱えている生徒に対し、誰一人取り残すことのない個に応じた学びの方法を模索し、生徒の学びに寄り添っていくことが課題である。個々の学びに対する多様なニーズに寄り添う学習相談の充実を目指したい。	B
4. 小中連携の充実	○けやき台中学校区連絡会を継続的に開催して実践交流を進め、中1ギャップを軽減する。	○校区小学校と「学校経営」、「生徒指導」、「連携教育」、「特別支援教育」を柱とした交流を行う。 ○入学説明会および、小学校6年生を対象として体験または出前授業の充実を図る。	○昨年度から引き続き、校区小学校と「学校経営」、「生徒指導」、「連携教育」、「特別支援教育」を柱とした交流を推進すると共に、今年度より「学力向上部会」を新設した。各校での取り組みの成果や課題を共有し、小中が連携した学習指導の充実を目指した。また、小学校で児童が授業に取り組む様子を参観し、児童の学びの姿を校内で共有し、小学校での学びと中学校での学びの継続性を実感できる授業の工夫を進めている。 ○入学説明会で、中学生の授業、部活動などの取り組みの様子を公開した。また、英語科で小学校に出前授業を行い、中学校の学習内容や学習規律について学ぶ機会を作った。	A
5. 読書活動の充実	○生徒会図書委員会を中心に読書活動の推進を行い、学校図書館の本の貸出冊数を昨年度より増やす。 ○全国学力・学習状況調査の生徒質問紙において、「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)」の項目で、「10分以上」の回答が56%を目指す。 ○全国学力・学習状況調査の生徒質問紙において、「読書は好きですか」の項目で、肯定的評価が70%を目指す。	○朝読書の時間を通じて、読書活動の充実を図る。 ○生徒会図書委員会の取り組み(おすすめ本の紹介など)を通じて、読書活動を推進する。 ○図書ボランティアと連携し、学校図書館の環境整備や昼休みの開館時間、本の貸し出しなどを推進する。 ○給食前後の休み時間に学校図書館を開館し、本の貸し出し機会を充実させ、学校図書室の利用を促進する。 ○「読書通帳」「さんだ子ども読書の日(毎月23日)」を効果的に活用し、生徒の読書に対する意欲を高める。	○多くの図書ボランティアの方の協力をいただき、毎日図書館を開館することで、たくさんの本と接する機会が増えた。 ○朝読書を推進し、読書習慣の涵養を促した。 ●全国学力・学習状況調査の生徒質問紙調査(20)では、「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか。」の項目において、10分以上と回答した生徒の割合が、約43%であった。一方で、「(24)「読書は好きですか。」の項目では、肯定的な回答が75%(全国65%)であることから、多くの生徒は読書活動は好きだが、読書をする時間を確保することが難しい現状が推察される。各教科の学習において、学びを支える語彙の獲得の重要性や、読書の良さを実感する指導を進めるとともに、委員会活動で本への興味を高める啓発活動に力を入れたり、本を貸し出す機会を増やすなど、読書に対する意識の向上と時間の確保を進めていきたい。	B